

# 「教員養成におけるICT技術を使った食をテーマとした総合的な学習の指導設計（特別活動）」

関谷 融

Teaching design for comprehensive learning on the theme of food using ICT technology  
～ (Special Activities)

Toru SEKIYA

長崎県立大学国際社会学部

**要旨** 平成 29 年に改訂・告示された小・中学校の『学習指導要領』には、児童・生徒の「理解」「技能」の「構図」が示されている。本稿では、『学習指導要領』における「特別活動」について、教職課程履修者自身の「総合的な学習」の指導イメージ形成と、教員として「総合的な学習を指導する際に「考えるための技法」のうち「関連付ける」を可視化する方法として概念地図化を用いた学習指導を実現できるように「総合的な学習」の具体的展開を、『食に関する指導の手引き改訂版』に即してイメージ化するための仕掛けづくりを試みた。そ

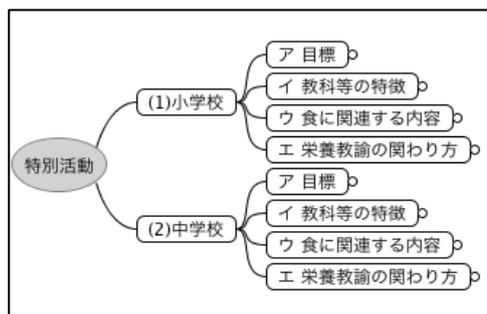
**キーワード** : 特別活動、総合的な学習の指導方法、概念地図

## 1. はじめに

筆者らはこれまで児童・生徒の「理解」の「構図」が示されている「学習指導要領」及びその『解説編』を、教職課程を履修する学生自身の学修、および長崎県の教員研修時の「ナビゲーター」として捉え直す方法について論じてきた。<sup>注1</sup>具体的には、『学習指導要領』を概念地図に変換するコンピュータ・ソフトウェア（“Freemind”<sup>注2</sup>）を使用して概念地図に変換して図的に可視化できるようにする

ものである。受講生には、この変換を通じて自分の希望する免許状教科科目の内容構造を直感的にイメージできるようになることを期待した。本稿では、本稿では、特に栄養教諭免許状及び中学社会科免許城履修学生が、自身の学習ナビゲーションとして活用することを念頭に、平成 29 年 3 月に改訂された『学習指導要領』における「特別活動」について、「総合的な学習の時間」の具体的展開を、『食に関する指導の手引き改訂版』に即してイメージ化するための仕掛けづくりを試みている。

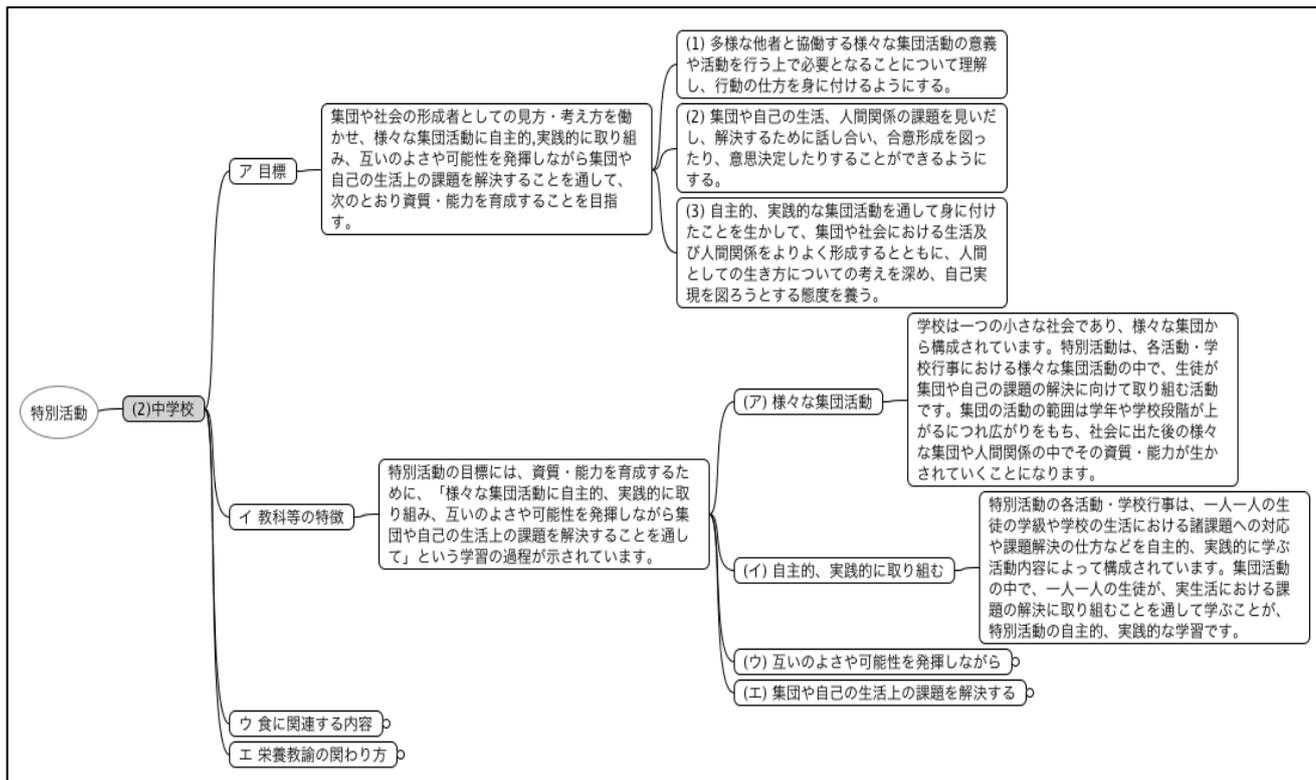
## 2. 『食に関する指導の手引き』における「特別活動」



01 特別活動の全体構造

「特別活動」は、小学校及び中学校ともに「ア 目標」「イ 教科等の特徴」「ウ 食に関する内容」「エ 栄養教諭の関わり方」の 4 項目で構成されている。

以下では、中学校段階についてそれらの下部構造を辿っていくことにする。※小学校は文末「補遺」へ。



02 中学特別活動\_ア目標\_イ教科の特徴(ア)(イ)

「ア 目標」の箇所では、『学習指導要領』における特別活動の目的が引用されている。

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

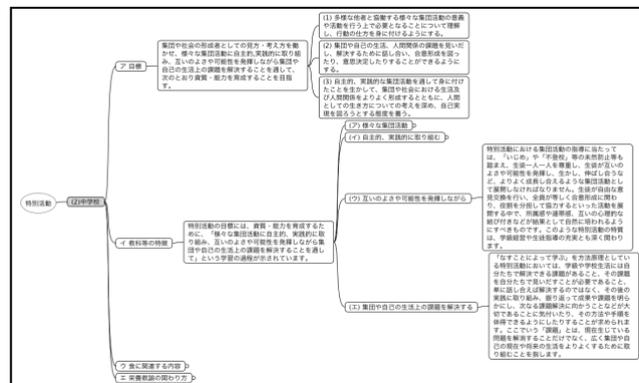
(『学習指導要領』より)

「イ 教科等の特徴」ではその目標を受ける形で、目標とされる資質・能力を育成するための学習の過程が、「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して」という形で述べられている。

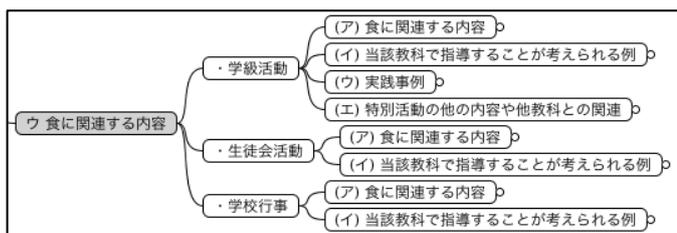
「(ア) 様々な集団活動」においては、学校は一つの小さな社会であり、様々な集団から構成されています。特別活

動は、各活動・学校行事における様々な集団活動の中で、生徒が集団や自己の課題の解決に向けて取り組む活動です。集団の活動の範囲は学年や学校段階が上がるにつれ広がりをもち、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中でその資質・能力が生かされていくことになります。

「(イ) 自主的、実践的に取り組む」においては、特別活動の各活動・学校行事は、一人一人の生徒の学級や学校の生活における諸課題への対応や課題解決の仕方などを自主的、実践的に学ぶ活動内容によって構成されています。集団活動の中で、一人一人の生徒が、実生活における課題の解決に取り組むことを通して学ぶことが、特別活動の自主的、実践的な学習です。※イ教科の特徴(ウ)(エ)は省略。



03 中学特別活動\_ア目標\_イ教科の特徴(ウ)(エ)



04 中学特別活動\_ウ食に関する内容

「ウ 食に関する内容」では、「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」の各領域について、「(ア) 食に関する内容」「(イ) 当該教科で指導することが考えられる例」（「学級活動」のみ、「(ウ) 実践事例」「(エ) 特別活動の他の内容や教科との関連」を追加）が下部構造となる。

「(ア) 食に関連する内容」においては、学級活動の内容に示された食に関する指導について

食に関する指導については、学級活動の内容「(2) オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」において行うことが考えられ、同解説特別活動編には次のように記述されています。

オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

給食の時間を中心としながら、成長や健康管理を意識するなど、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して人間関係をよりよくすること。

この内容は、自分の食生活を見直し、自ら改善して、生涯にわたって望ましい食習慣が形成され、食事を通してよりよい人間関係や社交性が育まれるようにするものである。

規則正しく調和のとれた食生活は、健康の保持増進の基本である。近年の生徒等の食生活の乱れが、生活習慣病はもとより心の健康問題にも発展するなど食に起因する新たな健康課題を生起していることから、学校においても食育を推進し、望ましい食習慣を形成することは極めて重要な課題となっている。

この内容において育成を目指す資質・能力としては、例えば、健康や食習慣の正しい知識が大切であることを理解し、給食の時間の衛生的で共同的な楽しい食事の在り方等を工夫するとともに、自らの生活や今後の成長、将来の生活と食生活の関係について考え、望ましい食習慣を形成するために判断し行動ができるようにすることが考えられる。また、そうした過程を通して、健康な心身や充実した生活を意識して、主体的に適切な食習慣を形成する態度を育てることなどが考えられる。

食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成は、食に関する資質・能力等を、生徒が発達の段階に応じて総合的に身に付けることができるように学校教育全体で

指導することである。したがって、学校の教育計画等と関連付けながら食に関する指導の全体計画を作成し、給食の時間を中心としながら、各教科等における食に関する指導を相互に関連付け、総合的かつ効果的な指導が行われるように留意する必要がある。

給食の時間においては、楽しく食事をする、栄養の偏りのない健康によい食事のとり方、食中毒の予防に関わる衛生管理の在り方、準備や後片付けなど作業を通して奉仕や協力・協調の精神を養うことなどに関する指導により望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して人間関係をよりよく形成していくことをねらいとしている。適切な給食時間を確保した上で、給食の準備から後片付けを通して、計画的・継続的に指導することが重要である。また、食を取り巻く社会環境の変化等を踏まえつつ、家庭との連携が重要である。さらに、心身の健康に関する内容にとどまらず、自然の恩恵などへの感謝、食文化、食糧事情などについても教科等の指導と関連を図りつつ指導を行うことが望まれる。

具体的な活動の工夫としては、自分の食生活を見直しと改善、望ましい食習慣への課題、生涯を通じた望ましい食習慣を形成などの題材を設定し、発表し合う活動などが考えられる。

また、「食」は心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼすこと、生涯にわたって健全な心と体を培い豊かな人間性を育んでいく基礎となることなどの題材を設定し、主体的に食習慣の改善に取り組むよう指導することが重要である。

また、「食」は心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼすこと、生涯にわたって健全な心と体を培い豊かな人間性を育んでいく基礎となることなどの題材を設定し、主体的に食習慣の改善に取り組むよう指導することが重要である。

#### 題材例(学級活動 (2))

- ・ 偏りのない健康によい食事
- ・ 食事のマナーを守って、和やかで楽しい給食
- ・ 食中毒を予防するための衛生管理

「(イ) 当該教科で指導することが考えられる例」においては、

○ 活動内容の指導においては、生徒が自主的に話し合えるようにすることが重要です。その際、日ごろの学級経営を大切にするとともに、学級の間人関係の状況や生徒の実態を十分に踏まえて適切な指導の下で活動を進められるようにする必要があります。

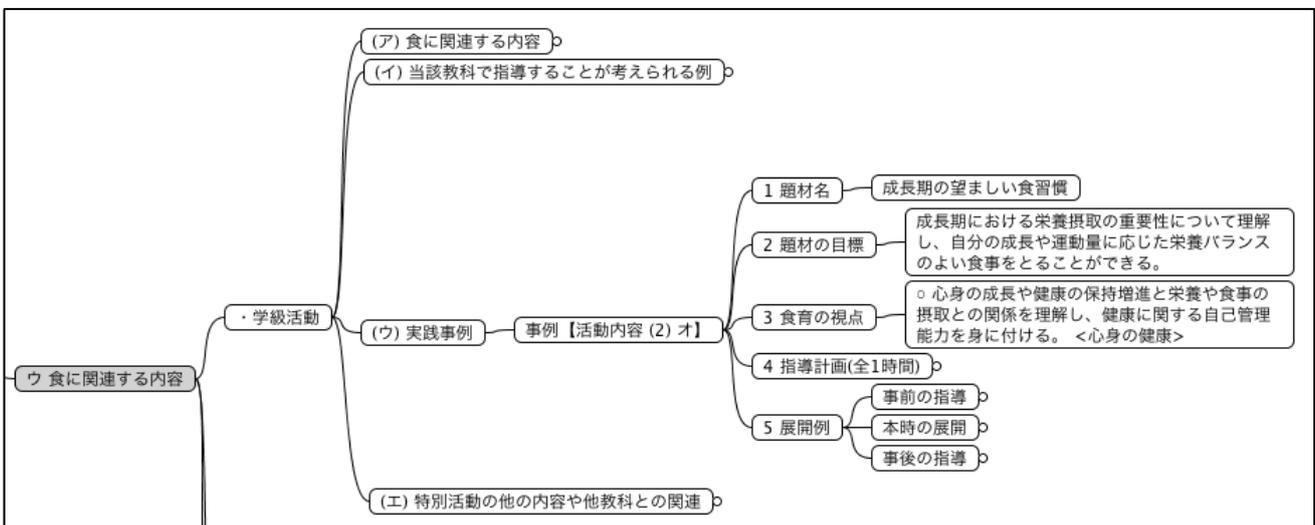
○ 学級における給食や健康に関する諸問題について、調査活動を行って問題点を指摘したり、その改善方法などについて提案したりする活動に積極的に取り組めるように指導することが大切です。

○ 学級の背面黒板等に健康に関するコーナーを設置し、学級活動の時間に活用した資料や、生徒会の専門委員会や学

級の係が作成したアンケートや新聞などを掲示し、食や健康に関する環境を整備し、生徒の自主的な活動や実践の意欲を高めるようにします。

○ 話し合い活動を進めながらその問題に対して生徒一人一人が自分自身の関わり方や自分の生き方を自覚し、これからの自分の具体的な行動の仕方を意思決定できるようにします。

○ 学校行事などとして実施する地域の職場等における職場体験活動との関連を図り、生徒の体験をもとにして、働く目的と意義、働くことと生きがいなどについて考え、生きることについて自分事として真剣に受け止め、自分の生き方を見つけていこうとする取組が考えられます。



05 学級活動\_ウ実践事例/活動内容 (2) オ/1~4

「(ウ) 実践事例」においては、事例【活動内容 (2) オ】として、

1 題材名は、

成長期の望ましい食習慣

2 題材の目標は、

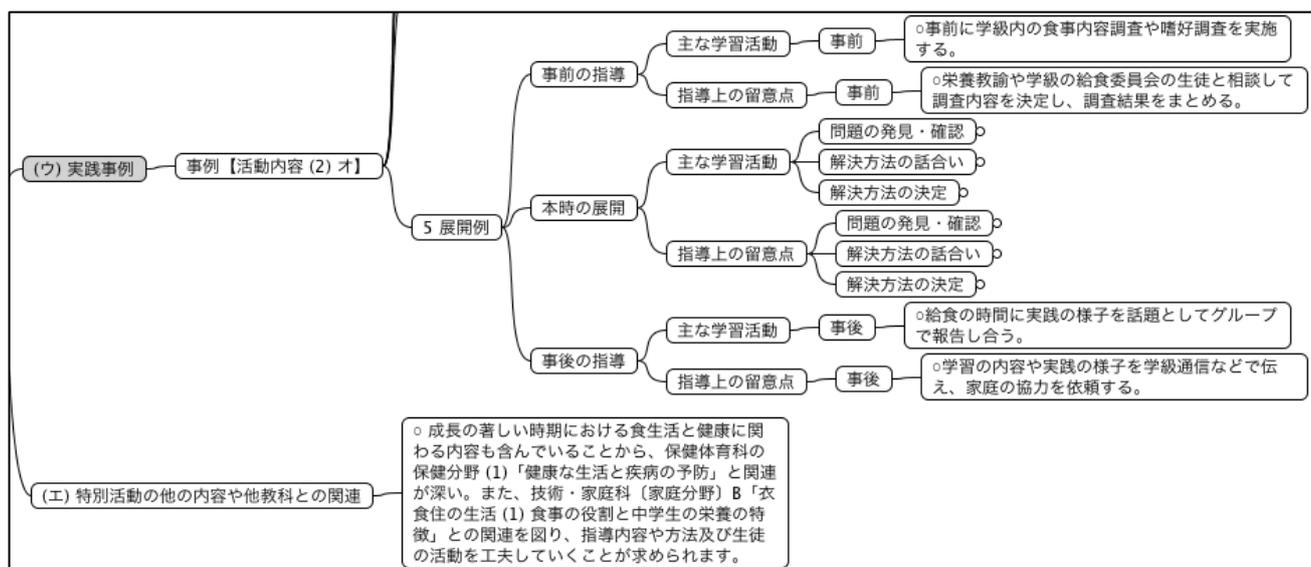
成長期における栄養摂取の重要性について理解し、自分の成長や運動量に応じた栄養バランスのよい食事をとることができる。

3 食育の視点は、

○ 心身の成長や健康の保持増進と栄養や食事の摂取との関係を理解し、健康に関する自己管理能力を身に付ける。 <心身の健康>

4 指導計画(全1時間)は、

※事前事後の活動は給食の時間や朝の会、帰りの会を活用する



06 学級活動\_ウ実践事例/活動内容(2)オ/5\_エ特別活動

5 展開例として、

事前の指導

主な学習活動

事前

○事前に学級内の食事内容調査や嗜好調査を実施する。

指導上の留意点

事前

○栄養教諭や学級の給食委員会の生徒と相談して調査内容を決定し、調査結果をまとめる。

本時の展開

主な学習活動

問題の発見・確認

○調査結果から自分の食生活を振り返り、食事のとり方や栄養の偏りなどについての自分の課題をつかむ。

解決方法の話合い

○自分の食生活の課題について、原因を考えるとともに、栄養教諭から中学校の時期に多くの栄養が必要であることについて話を聞き、改善の必要性を感じる。

○成長期における食生活の改善の仕方について話し合う。

解決方法の決定

○食生活を改善し成長期の自分に合った食事のとり方について考え、実践することを決める。

指導上の留意点

問題の発見・確認

○朝、昼、夕ときちんと食事をとっているか、食事の量は多いが栄養を考えず糖質や脂肪の多い食品などを多くとっていないかなど振り返り、自分の食生活の課題がつかめる

ようにする。(家庭環境の差異や個人情報に十分留意して調査、集計、表示を行うこと。)

解決方法の話合い

○成長期であることや、部活動等で激しい運動をすることなどを視点とする。

\*栄養教諭が給食献立を資料として活用し、中学生と成人のエネルギー必要量の違いや中学生の時期に多くの栄養が必要であることに気付けるようにする。

○自分の努力だけでなく身近な大人から取材してきたことも発表する。また担任や栄養教諭の体験談等も交える。

解決方法の決定

○個々の改善点や実践することを発表することで、実践への意欲を高める。

事後の指導

主な学習活動

事後

○給食の時間に実践の様子を話題としてグループで報告し合う。

指導上の留意点

事後

○学習の内容や実践の様子を学級通信などで伝え、家庭の協力を依頼する。

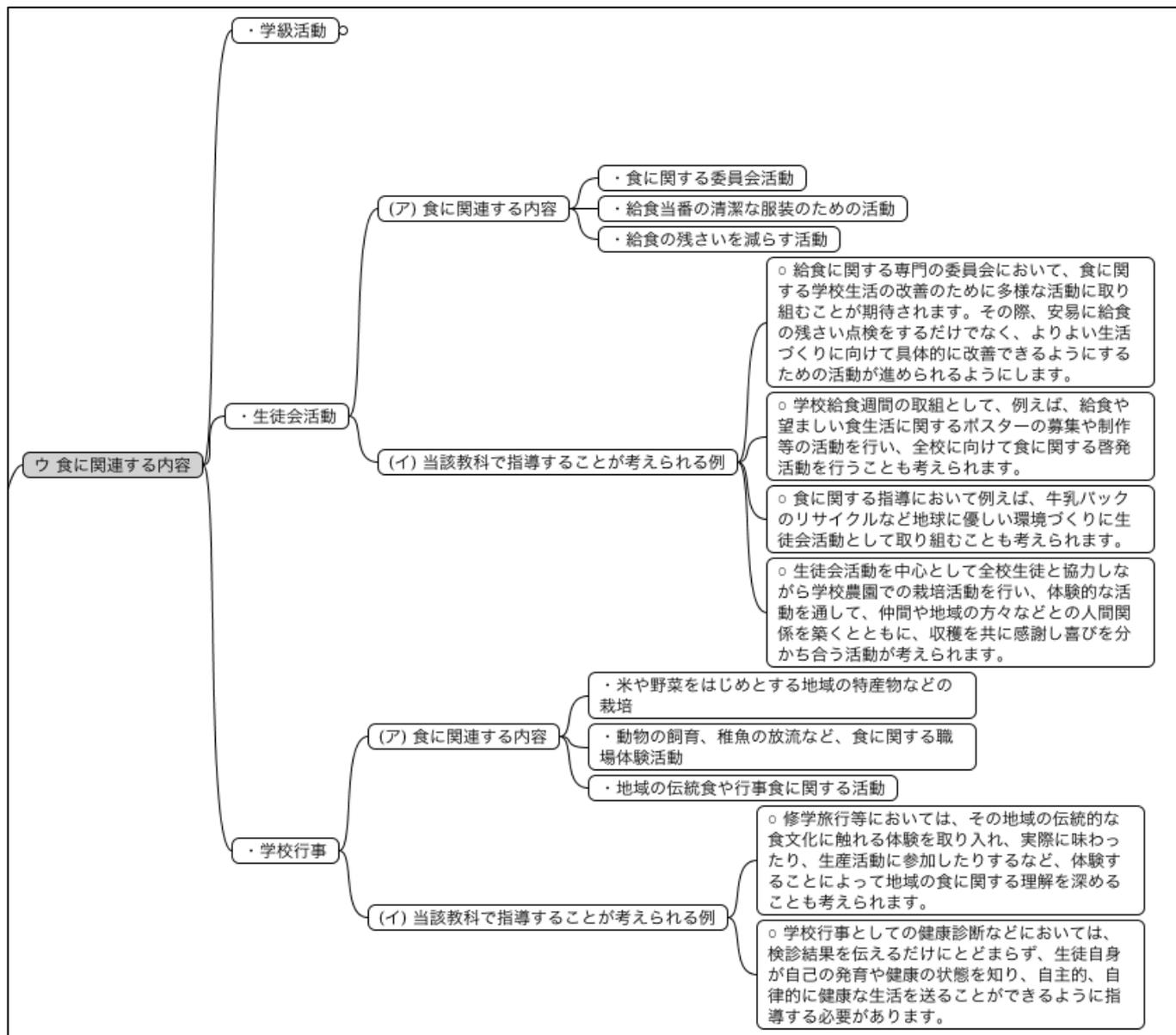
「(エ) 特別活動の他の内容や他教科との関連」においては、

○ 成長の著しい時期における食生活と健康に関わる内容も含んでいることから、保健体育科の保健分野(1)「健康な生活と疾病の予防」と関連が深い。また、技術・家庭科〔家庭分野〕B「衣食住の生活(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴」との関連を図り、指導内容や方法及び生徒の活動を工夫していくことが求められます。

■研究論文

その際、安易に給食の残さい点検をするだけでなく、よりよい生活づくりに向けて具体的に改善できるようにするための活動が進められるようにします。

○ 給食に関する専門の委員会において、食に関する学校生活の改善のために多様な活動に取り組むことが期待されます。



07 特別活動\_ウ食に関する内容\_生徒会\_学校行事

(ア) 食に関連する内容

「生徒会活動」においては、

- ・食に関する委員会活動
- ・給食当番の清潔な服装のための活動
- ・給食の残さいを減らす活動

(イ) 当該教科で指導することが考えられる例

○ 学校給食週間の取組として、例えば、給食や望ましい食生活に関するポスターの募集や制作等の活動を行い、全校に向けて食に関する啓発活動を行うことも考えられます。

○ 食に関する指導において例えば、牛乳パックのリサイクルなど地球に優しい環境づくりに生徒会活動として取り組むことも考えられます。

○ 生徒会活動を中心として全校生徒と協力しながら学校農園での栽培活動を行い、体験的な活動を通して、仲間や地域の方々などとの人間関係を築くとともに、収穫を共に感謝し喜びを分かち合う活動が考えられます。

「・学校行事」においては、

(ア) 食に関連する内容

・米や野菜をはじめとする地域の特産物などの栽培

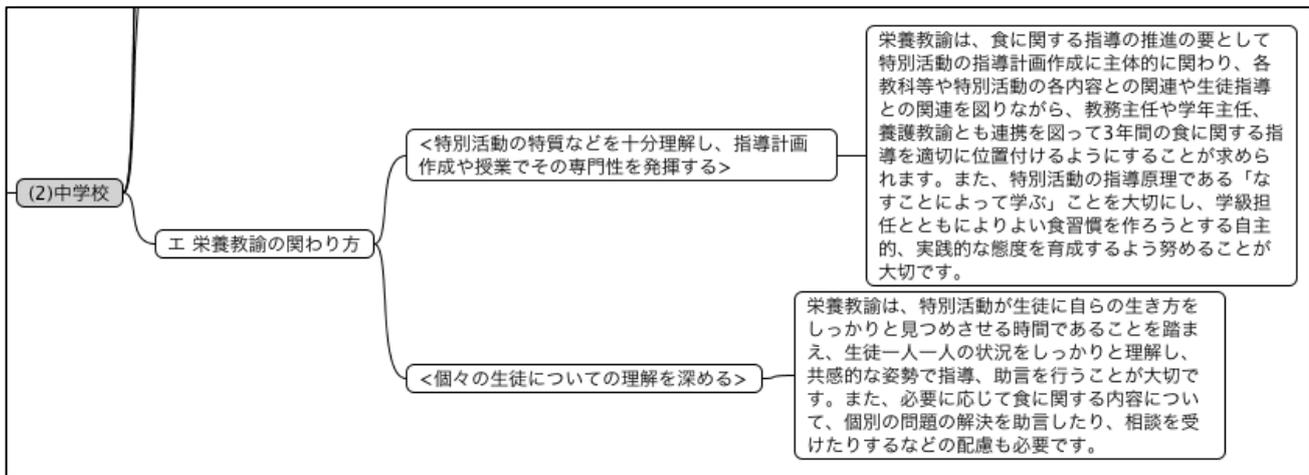
○ 修学旅行等においては、その地域の伝統的な食文化に触れる体験を取り入れ、実際に味わったり、生産活動に参加したりするなど、体験することによって地域の食に関する理解を深めることも考えられます。

○ 学校行事としての健康診断などにおいては、検診結果を伝えるだけにとどまらず、生徒自身が自己の発育や健康の状態を知り、自主的、自律的に健康な生活・動物の飼育、稚魚の放流など、食に関する職場体験活動

・地域の伝統食や行事食に関する活動

(イ) 当該教科で指導することが考えられる例

を送ることができるように指導する必要があります。



08 特別活動\_栄養教諭の関わり方

「エ 栄養教諭の関わり方」においては、

特別活動の特質などを十分理解し、指導計画作成や授業でその専門性を発揮する>

栄養教諭は、食に関する指導の推進の要として特別活動の指導計画作成に主体的に関わり、各教科等や特別活動の各内容との関連や生徒指導との関連を図りながら、教務主任や学年主任、養護教諭とも連携を図って3年間の食に関する指導を適切に位置付けるようにすることが求められます。また、特別活動の指導原理である「なすことによって学ぶ」ことを大切にし、学級担任とともにによりよい食習慣を作ろうとする自主的、実践的な態度を育成するよう努めることが大切です。

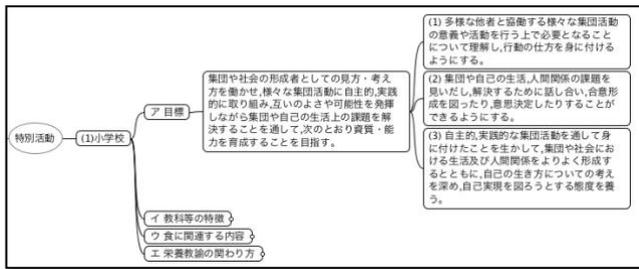
<個々の生徒についての理解を深める>

栄養教諭は、特別活動が生徒に自らの生き方をしっかりと見つめさせる時間であることを踏まえ、生徒一人一人の状

況をしっかりと理解し、共感的な姿勢で指導、助言を行うことが大切です。また、必要に応じて食に関する内容について、個別の問題の解決を助言したり、相談を受けたりするなどの配慮も必要です。

### 3. おわりに

「はじめに」でも述べたように、本稿は直接には栄養教諭免許状履修者にとっての「総合的な学習の時間」の指導法に関わるものであるが、他の免許状（本学では、中学社会科、高校公民科及び養護教諭）履修者が「総合的な学習の時間」「総合的な探求の時間」の指導法を構想する際の具体的な範例として、とりわけ、いずれの教科においても、必要なことではあるがおろそかになりがちな『学習指導要領』の構造を視野に入れつつの各学校・教員が日々の教育活動を構想する際にも有効であるように思われる。

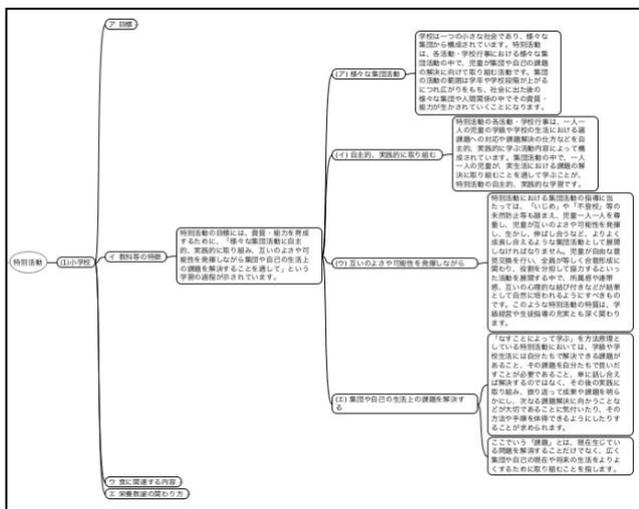


01 特別活動\_ア目標

ア 目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを旨とする。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。



02 特別活動\_イ教科の特徴

イ 教科等の特徴

特別活動の目標には、資質・能力を育成するために、「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して」という学習の過程が示されています。

(ア) 様々な集団活動

学校は一つの小さな社会であり、様々な集団から構成されています。特別活動は、各活動・学校行事における様々な集団活動の中で、児童が集団や自己の課題の解決に向けて取り組む活動です。集団の活動の範囲は学年や学校段階が上がるにつれ広がりをもち、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中でその資質・能力が生かされていくこととなります。

(イ) 自主的、実践的に取り組む

特別活動の各活動・学校行事は、一人一人の児童の学級や学校の生活における諸課題への対応や課題解決の仕方などを自主的、実践的に学ぶ活動内容によって構成されています。集団活動の中で、一人一人の児童が、実生活における課題の解決に取り組むことを通して学ぶことが、特別活動の自主的、実践的な学習です。

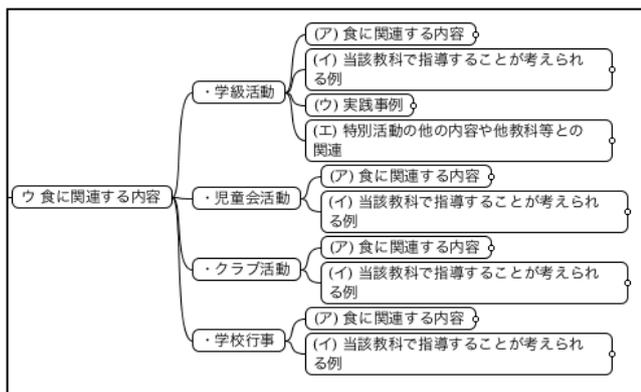
(ウ) 互いのよさや可能性を發揮しながら

特別活動における集団活動の指導に当たっては、「いじめ」や「不登校」等の未然防止等も踏まえ、児童一人一人を尊重し、児童が互いのよさや可能性を發揮し、生かし、伸ばし合うなど、よりよく成長し合えるような集団活動として展開しなければなりません。児童が自由な意見交換を行い、全員が等しく合意形成に関わり、役割を分担して協力するといった活動を展開する中で、所属感や連帯感、互いの心理的な結び付きなどが結果として自然に培われるようにすべきものです。このような特別活動の特質は、学級経営や生徒指導の充実とも深く関わります。

(エ) 集団や自己の生活上の課題を解決する

「なすことによって学ぶ」を方法原理としている特別活動においては、学級や学校生活には自分たちで解決できる課題があること、その課題を自分たちで見いだすことが必要であること、単に話し合えば解決するのではなく、その後の実践に取り組む、振り返って成果や課題を明らかにし、次なる課題解決に向かうことなどが大切であることに気付いたり、その方法や手順を体得できるようにしたりすることが求められます。

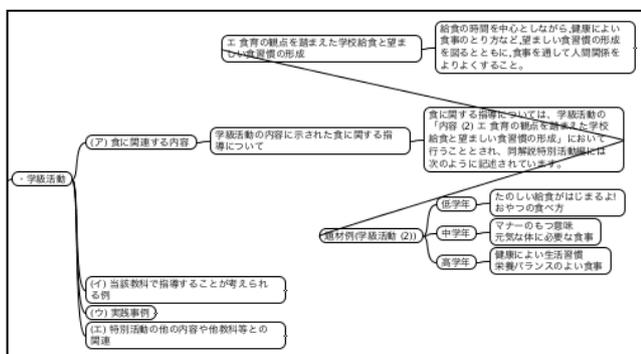
ここでいう「課題」とは、現在生じている問題を解消することだけでなく、広く集団や自己の現在や将来の生活をよりよくするために取り組むことを指します。



03 特別活動\_ウ食に関する内容

ウ 食に関する内容

- ・学級活動



04 学級活動(ア)食に関する内容

(ア) 食に関する内容

学級活動の内容に示された食に関する指導について

食に関する指導については、学級活動の「内容(2) エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」において行うこととされ、同解説特別活動編には次のように記述されています。

エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

給食の時間を中心としながら、健康によい食事のとり方など、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して人間関係をよりよくすること。

この内容は、自分の食生活を見直し、自ら改善して、生涯にわたって望ましい食習慣が形成され、食事を通してよりよい人間関係や社交性が育まれるようにするものである。楽しく食事をする事、健康によい食事のとり方、給食時の清潔、食事環境の整備などの改善について身近な事例を通して考え、自己の課題に気づき、具体的な目標を立てて取り組むなどの活動が中心となる。

この内容において育成を目指す資質・能力については、例えば、望ましい食習慣の形成を図ることの大切さや、食事を

通して人間関係をよりよくすることのよさや意義などを理解すること、給食の時間の楽しい食事の在り方や健康によい食事のとり方などについて考え、改善を図って望ましい食習慣を形成するために判断し行動することができるようにすることが考えられる。また、そうした過程を通して、主体的に望ましい食習慣や食生活を実現しようとする態度を養うことなどが考えられる。食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成は、食に関する資質・能力等を、児童が発達の段階に応じて総合的に身に付けることができるように学校教育全体で指導することである。したがって、学校の教育計画等と関連付けながら食に関する指導の全体計画を作成し、給食の時間を中心としながら、各教科等における食に関する指導を相互に関連付け、総合的かつ効果的な指導が行われるように留意する必要がある。

給食の時間は、楽しく食事をする事、健康によい食事のとり方、給食時の清潔、食事環境の整備などに関する指導により、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通じてよりよい人間関係の形成を図る。そして、適切な給食時間を確保した上で、給食の準備から後片付けを通して、計画的・継続的に指導する必要がある。また、食を取り巻く社会環境の変化により、栄養摂取の偏りや欠食といった食習慣の乱れ等に起因する肥満などの生活習慣病、食物アレルギー等の問題が指摘される現在、家庭との連携が今後更に重要になる。心身の健康に関する内容にとどまらず、自然の恩恵への感謝、食文化、食料事情などについても各教科等との関連を図りつつ指導を行うことが重要である。

これらの指導に当たっては、栄養教諭の専門性を生かしつつ、学校栄養職員や養護教諭などの協力を得て指導に当たることが必要である。また、これらの学校給食に関する内容については、学級活動の授業時数には充てない給食の時間を中心に指導することになるが、学級活動の時間でも取り上げ、その指導の特質を踏まえて計画的に指導する必要がある。その際、学校給食を教材として活用するなど多様な指導方法を工夫することが大切である。

なお、学校給食を実施していない学校においても、児童が健康の大切さを実感し、生涯にわたって自己の健康に配慮した食生活が営めるよう、食育の観点も踏まえて望ましい食習慣の形成の指導を行う必要がある。また、指導する内容によっては、「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」の指導として取り上げることも考えられる。

題材例(学級活動(2))

低学年

たのしい給食がはじまるよ!

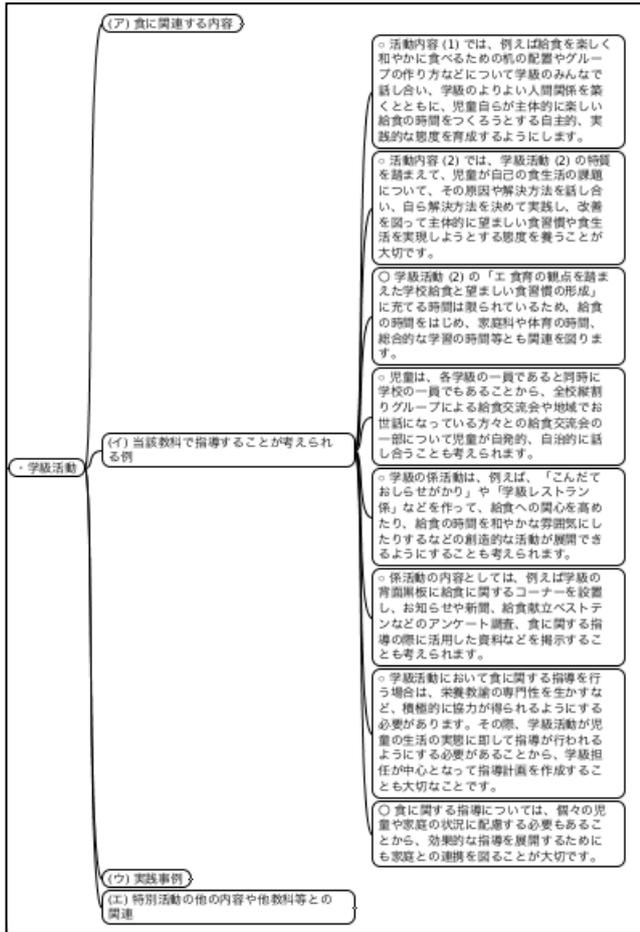
おやつのおべか

中学年

マナーのもつ意味

元気な体に必要な食事

高学年

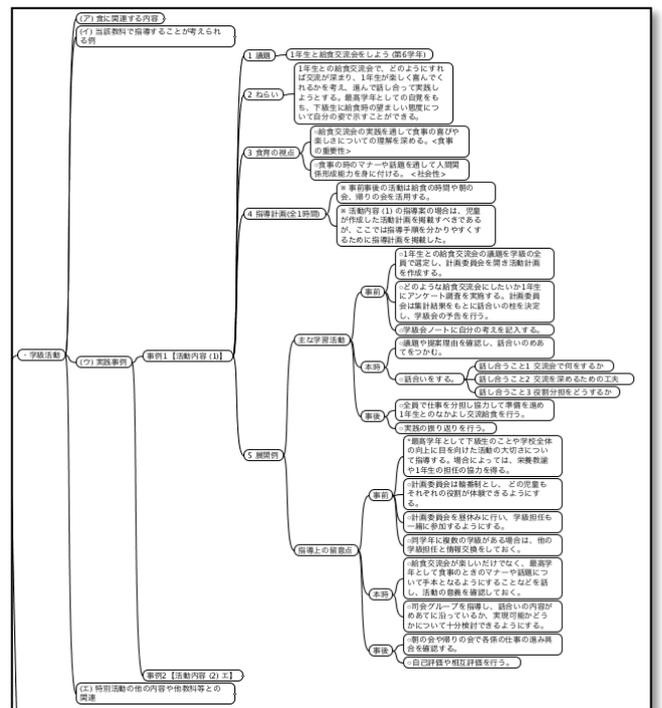


05 学級活動(イ)指導例

(イ) 当該教科で指導することが考えられる例

- 活動内容 (1) では、例えば給食を楽しく和やかに食べるための机の配置やグループの作り方などについて学級のみんなで話し合い、学級のよりよい人間関係を築くとともに、児童自らが主体的に楽しい給食の時間をつくらうとする自主的、実践的な態度を育成するようにします。
- 活動内容 (2) では、学級活動 (2) の特質を踏まえて、児童が自己の食生活の課題について、その原因や解決方法を話し合い、自ら解決方法を決めて実践し、改善を図って主体的に望ましい食習慣や食生活を実現しようとする態度を養うことが大切です。
- 学級活動 (2) の「エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」に充てる時間は限られているため、給食の時間をはじめ、家庭科や体育の時間、総合的な学習の時間等とも関連を図ります。
- 児童は、各学級の一員であると同時に学校の一員でもあることから、全校縦割りグループによる給食交流会や地域でお世話になっている方々との給食交流会の一部について児童が自発的、自治的に話し合うことも考えられます。
- 学級の係活動は、例えば、「こんだておしらせがかり」や「学級レストラン」などを作って、給食への関心を高めたり、給食の時間を和やかな雰囲気にしたりとするなどの創造的な活動が展開できるようにすることも考えられます。
- 係活動の内容としては、例えば学級の背面黒板に給食に関するコーナーを設置し、お知らせや新聞、給食献立ベストテンなどのアンケート調査、食に関する指導の際に活用した資料などを掲示することも考えられます。
- 学級活動において食に関する指導を行う場合は、栄養教諭の専門性を生かすなど、積極的に協力が得られるようにする必要があります。その際、学級活動が児童の生活の実態に即して指導が行われるようにする必要がありますことから、学級担任が中心となって指導計画を作成することも大切なことです。
- 食に関する指導については、個々の児童や家庭の状況に配慮する必要があることから、効果的な指導を展開するためにも家庭との連携を図ることが大切です。

- 児童が自発的、自治的に話し合うことも考えられます。
- 学級の係活動は、例えば、「こんだておしらせがかり」や「学級レストラン係」などを作って、給食への関心を高めたり、給食の時間を和やかな雰囲気にしたりするなどの創造的な活動が展開できるようにすることも考えられます。
- 係活動の内容としては、例えば学級の背面黒板に給食に関するコーナーを設置し、お知らせや新聞、給食献立ベストテンなどのアンケート調査、食に関する指導の際に活用した資料などを掲示することも考えられます。
- 学級活動において食に関する指導を行う場合は、栄養教諭の専門性を生かすなど、積極的に協力が得られるようにする必要があります。その際、学級活動が児童の生活の実態に即して指導が行われるようにする必要がありますことから、学級担任が中心となって指導計画を作成することも大切なことです。
- 食に関する指導については、個々の児童や家庭の状況に配慮する必要があることから、効果的な指導を展開するためにも家庭との連携を図ることが大切です。



06 学級活動(ウ)実践事例(1)

(ウ) 実践事例

事例1【活動内容(1)】

1 議題

1年生と給食交流会をしよう(第6学年)

2 ねらい

1年生との給食交流会で、どのようにすれば交流が深まり、1年生が楽しく喜んでくれるかを考え、進んで話し合

て実践しようとする。最高学年としての自覚をもち、下級生に給食時の望ましい態度について自分の姿で示すことができる。

### 3 食育の視点

○給食交流会の実践を通して食事の喜びや楽しさについての理解を深める。<食事の重要性>

○食事の時のマナーや話題を通して人間関係形成能力を身に付ける。 <社会性>

### 4 指導計画(全1時間)

※ 事前事後の活動は給食の時間や朝の会、帰りの会を活用する。

※ 活動内容 (1) の指導案の場合は、児童が作成した活動計画を掲載すべきであるが、ここでは指導手順を分かりやすくするために指導計画を掲載した。

### 5 展開例

#### 主な学習活動

#### 事前

○1年生との給食交流会の議題を学級の全員で選定し、計画委員会を開き活動計画を作成する。

○どのような給食交流会にしたいか 1年生にアンケート調査を実施する。計画委員会は集計結果をもとに話合いの柱を決定し、学級会の予告を行う。

○学級会ノートに自分の考えを記入する。

#### 本時

○議題や提案理由を確認し、話合いのめあてをつかむ。

○話合いをする。

話し合うこと 1 交流会で何をするか

話し合うこと 2 交流を深めるための工夫

話し合うこと 3 役割分担をどうするか

#### 事後

○全員で仕事を分担し協力して準備を進め 1年生とのなかよし交流給食を行う。

○実践の振り返りを行う。

#### 指導上の留意点

#### 事前

\*最高学年として下級生のことや学校全体の向上に目を向けた活動の大切さについて指導する。場合によっては、栄養教諭や1年生の担任の協力を得る。

○計画委員会は輪番制とし、どの児童もそれぞれの役割が体験できるようにする。

○計画委員会を昼休みに行い、学級担任も一緒に参加するようにする。

○同学年に複数の学級がある場合は、他の学級担任と情報交換をしておく。

#### 本時

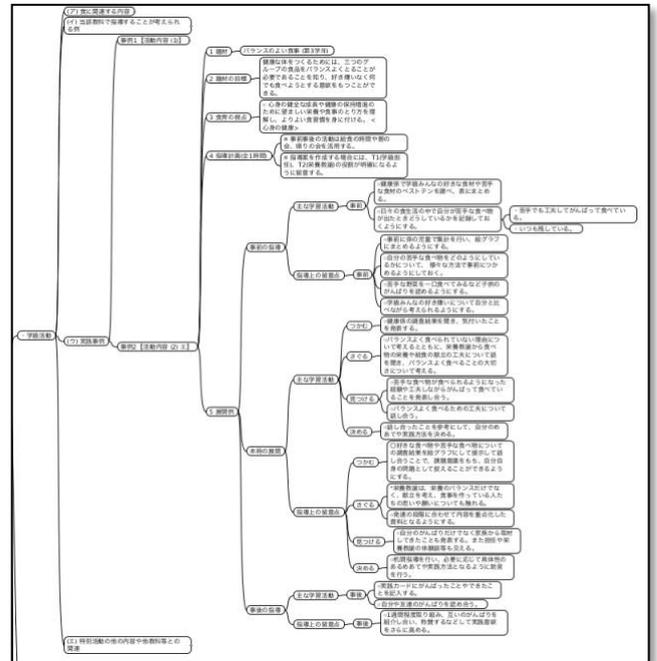
○給食交流会が楽しいだけでなく、最高学年として食事のときのマナーや話題について手本となるようにすることなどを話し、活動の意義を確認しておく。

○司会グループを指導し、話合いの内容がめあてに沿っているか、実現可能かどうかについて十分検討できるようにする。

#### 事後

○朝の会や帰りの会で各係の仕事の進み具合を確認する。

○自己評価や相互評価を行う。



07 学級活動(ウ)実践事例(2)

### 事例 2【活動内容 (2) エ】

#### 1 題材

バランスのよい食事 (第3学年)

#### 2 題材の目標

健康な体をつくるためには、三つのグループの食品をバランスよくとることが必要であることを知り、好き嫌いなく何でも食べようとする意欲をもつことができる。

#### 3 食育の視点

○心身の健全な成長や健康の保持増進のために望ましい栄養や食事のとり方を理解し、よりよい食習慣を身に付ける。 <心身の健康>

#### 4 指導計画(全1時間)

※ 事前事後の活動は給食の時間や朝の会、帰りの会を活用する。

※ 指導案を作成する場合には、T1(学級担任)、T2(栄養教諭)の役割が明確になるように留意する。

#### 5 展開例

#### 事前の指導

#### 主な学習活動

#### 事前

○健康係で学級みんなの好きな食材や苦手な食材のベスト

テンを調べ、表にまとめる。

指導上の留意点

事前

○事前に係の児童で集計を行い、絵グラフにまとめるようにする。

○自分の苦手な食べ物をどのようにしているかについて、様々な方法で事前につかめるようにしておく。

○苦手な野菜を一口食べてみるなど子供のがんばりを認めるようにする。

○学級みんなの好き嫌いについて自分と比べながら考えられるようにする。

本時の展開

主な学習活動

つかむ○健康係の調査結果を聞き、気付いたことを発表する。

さぐる○バランスよく食べられていない理由について考えるとともに、栄養教諭から食べ物の栄養や給食の献立の工夫について話を聞き、バランスよく食べることの大切さについて考える。

見つける○苦手な食べ物が食べられるようになった経験や工夫しながらがんばって食べていることを話し合う。

○バランスよく食べるための工夫について話し合う。

決める○話し合ったことを参考にして、自分のめあてや実践方法を決める。

指導上の留意点

つかむ○好きな食べ物や苦手な食べ物についての調査結果を絵グラフにして提示して話し合うことで、課題意識をもち、自分自身の問題として捉えることができるようにする。

さぐる\*栄養教諭は、栄養のバランスだけでなく、献立を考え、食事を作っている人たちの思いや願いについても触れる。

○発達の段階に合わせて内容を重点化した資料となるようにする。

見つける○自分のがんばりだけでなく家族から取材してきたことも発表する。また担任や栄養教諭の体験談等も交える。

決める○机間指導を行い、必要に応じて具体性のあるめあてや実践方法となるように助言を行う。

事後の指導

主な学習活動

事後

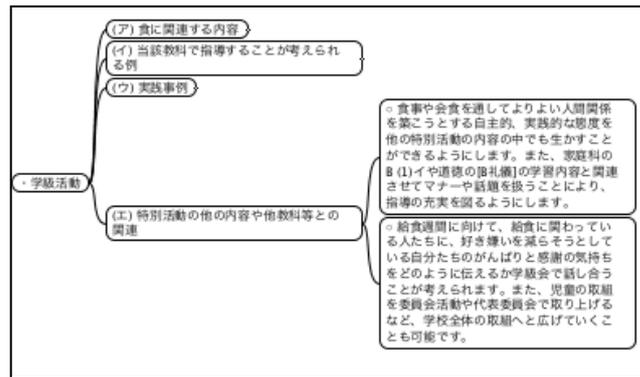
○実践カードにがんばったことやできたことを記入する。

○自分や友達のがんばりを認め合う。

指導上の留意点

事後

○1週間程度取り組み、互いのがんばりを紹介し合い、称賛するなどして実践意欲をさらに高める。

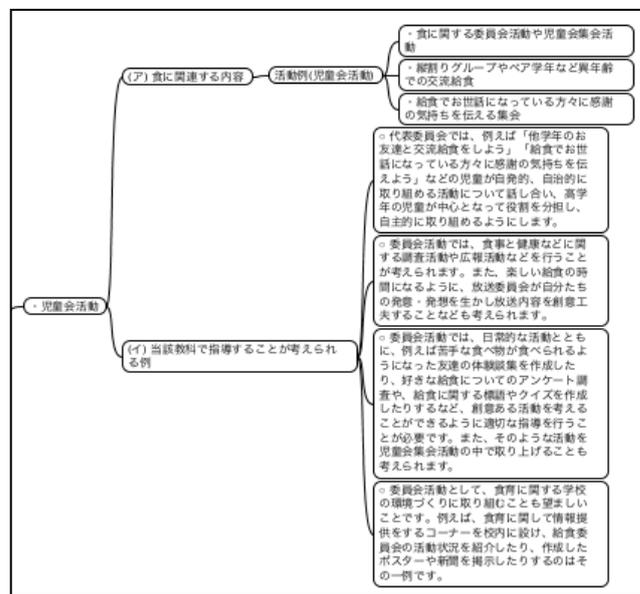


08 学級活動(エ)他教科等との関連

(エ) 特別活動の他の内容や他教科等との関連

○ 食事や会食を通してよりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を他の特別活動の内容の中でも生かすことができるようにします。また、家庭科の B (1)イや道徳の[B 礼儀]の学習内容と関連させてマナーや話題を扱うことにより、指導の充実を図るようにします。

○ 給食週間に向けて、給食に関わっている人たちに、好き嫌いを減らそうとしている自分たちのがんばりと感謝の気持ちをどのように伝えるか学級会で話し合うことが考えられます。また、児童の取組を委員会活動や代表委員会で取り上げるなど、学校全体の取組へと広げていくことも可能です。



09 児童会活動・児童会活動

(ア) 食に関連する内容

活動例(児童会活動)

- ・食に関する委員会活動や児童会集会活動
- ・縦割りグループやペア学年など異年齢での交流給食
- ・給食でお世話になっている方々に感謝の気持ちを伝える

集会

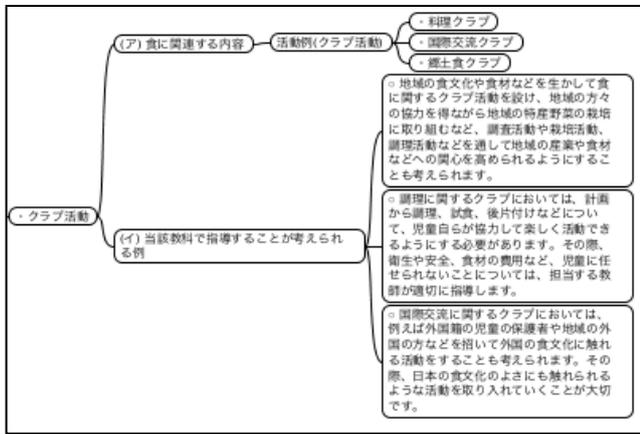
(イ) 当該教科で指導することが考えられる例

○ 代表委員会では、例えば「他学年のお友達と交流給食をしよう」「給食でお世話になっている方々に感謝の気持ちを伝えよう」などの児童が自発的、自治的に取り組める活動について話し合い、高学年の児童が中心となって役割を分担し、自主的に取り組めるようにします。

○ 委員会活動では、食事と健康などに関する調査活動や広報活動などを行うことが考えられます。また、楽しい給食の時間になるように、放送委員会が自分たちの発意・発想を生かし放送内容を創意工夫することなども考えられます。

○ 委員会活動では、日常的な活動とともに、例えば苦手な食べ物が食べられるようになった友達の体験談集を作成したり、好きな給食についてのアンケート調査や、給食に関する標語やクイズを作成したりするなど、創意ある活動を考えることができるように適切な指導を行うことが必要です。また、そのような活動を児童会集会活動の中で取り上げることも考えられます。

○ 委員会活動として、食育に関する学校の環境づくりに取り組むことも望ましいことです。例えば、食育に関して情報提供をするコーナーを校内に設け、給食委員会の活動状況を紹介したり、作成したポスターや新聞を掲示したりするのはその一例です。



10 クラブ活動

・クラブ活動

(ア) 食に関連する内容

活動例(クラブ活動)

- ・料理クラブ
- ・国際交流クラブ
- ・郷土食クラブ

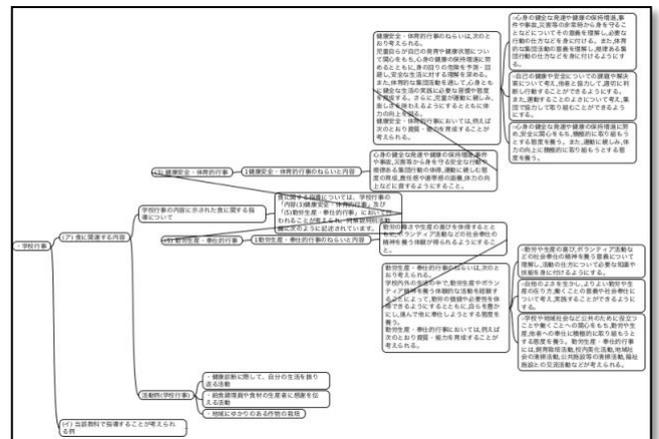
(イ) 当該教科で指導することが考えられる例

○ 地域の食文化や食材などを生かして食に関するクラブ活動を設け、地域の方々との協力を得ながら地域の特産野菜

の栽培に取り組むなど、調査活動や栽培活動、調理活動などを通して地域の産業や食材などへの関心を高められるようにすることも考えられます。

○ 調理に関するクラブにおいては、計画から調理、試食、後片付けなどについて、児童自らが協力して楽しく活動できるようにする必要があります。その際、衛生や安全、食材の費用など、児童に任せられないことについては、担当する教師が適切に指導します。

○ 国際交流に関するクラブにおいては、例えば外国籍の児童の保護者や地域の外国の方などを招いて外国の食文化に触れる活動をするとも考えられます。その際、日本の食文化のよさにも触れられるような活動を取り入れていくことが大切です。



11 学校行事

(ア)食に関連する内容・学校行事

(ア) 食に関連する内容

学校行事の内容に示された食に関する指導について

食に関する指導については、学校行事の「内容(3)健康安全・体育的行事」及び「(5)勤労生産・奉仕的行事」において行われることが考えられ、同解説特別活動編に次のように記述されています。

(3) 健康安全・体育的行事

1 健康安全・体育的行事のねらいと内容

心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。

健康安全・体育的行事のねらいは、次のとおり考えられる。児童自らが自己の発育や健康状態について関心をもち、心身の健康の保持増進に努めるとともに、身の回りの危険を予測・回避し、安全な生活に対する理解を深める。また、体育的な集団活動を通して、心身ともに健全な生活の実践に必要な習慣や態度を育成する。さらに、児童が運動に親しみ、楽しさを味わえるようにするとともに体力の向上を図る。

健康安全・体育的行事においては、例えば次のとおり資質・能力を育成することが考えられる。

○心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等の非常時から身を守るなどについてその意義を理解し、必要な行動の仕方などを身に付ける。また、体育的な集団活動の意義を理解し、規律ある集団行動の仕方などを身に付けるようにする。

○自己の健康や安全についての課題や解決策について考え、他者と協力して、適切に判断し行動することができるようにする。また、運動することのよさについて考え、集団で協力して取り組むことができるようにする。

○心身の健全な発達や健康の保持増進に努め、安全に関心をもち、積極的に取り組もうとする態度を養う。また、運動に親しみ、体力の向上に積極的に取り組もうとする態度を養う。

(5) 勤労生産・奉仕的行事

1 勤労生産・奉仕的行事のねらいと内容

勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。

勤労生産・奉仕的行事のねらいは、次のとおり考えられる。学校内外の生活の中で、勤労生産やボランティア精神を養う体験的な活動を経験することによって、勤労の価値や必要性を体得できるようにするとともに、自らを豊かにし、進んで他に奉仕しようとする態度を養う。

勤労生産・奉仕的行事においては、例えば次のとおり資質・能力を育成することが考えられる。

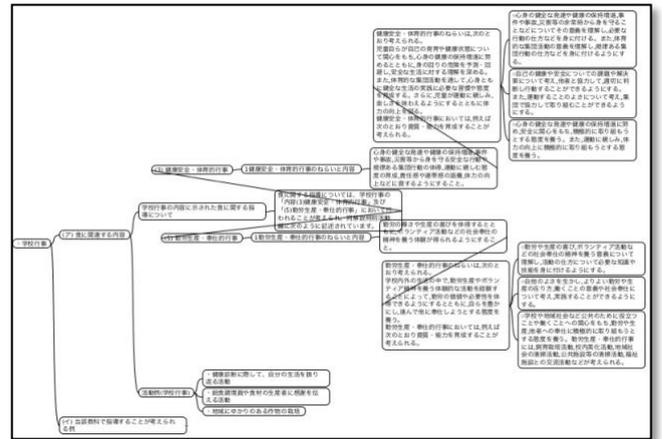
○勤労や生産の喜び、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う意義について理解し、活動の仕方について必要な知識や技能を身に付けるようにする。

○自他のよさを生かし、よりよい勤労や生産の在り方、働くことの意義や社会奉仕について考え、実践することができるようにする。

○学校や地域社会など公共のために役立つことや働くことへの関心をもち、勤労や生産、他者への奉仕に積極的に取り組もうとする態度を養う。勤労生産・奉仕的行事には、飼育栽培活動、校内美化活動、地域社会の清掃活動、公共施設等の清掃活動、福祉施設との交流活動などが考えられる。

活動例(学校行事)

- ・健康診断に際して、自分の生活を振り返る活動
- ・給食調理員や食材の生産者に感謝を伝える活動
- ・地域にゆかりのある作物の栽培



12 学校行事(イ)指導例

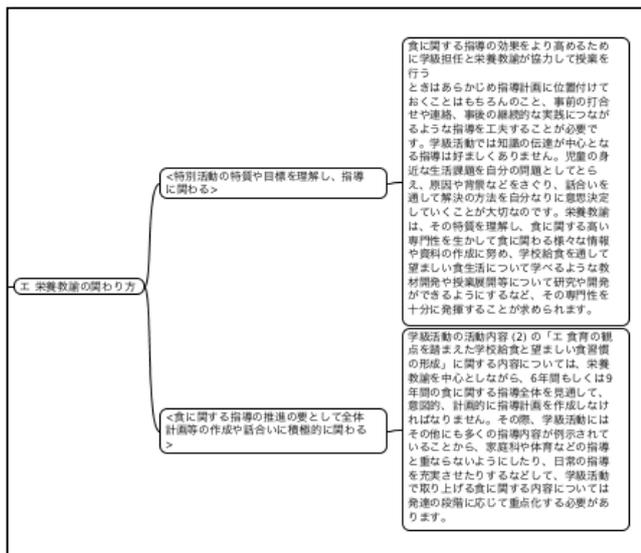
(イ) 当該教科で指導することが考えられる例

○健康診断などの健康安全・体育的行事においては、個々に発育の状況には違いがあることや、食事や運動、適切な睡眠時間など調和のとれた生活が必要なことを理解し、学級活動の指導や体育の保健学習などとの関連を図りながら健康な生活を送ることができるような意欲や自主的、実践的な態度を育てるようにします。

○給食週間や給食と健康に関する学校行事を実施する際には、例えば給食の調理員、食材の生産者など、学校給食に関わる様々な方々に感謝するとともに、学校給食の歴史やその大切さについて理解できるようにする活動などが考えられます。

○遠足・集団宿泊的行事では、家族が作ってくれたお弁当、みんなで作る野外調理、修学旅行の宿泊先での食事など、みんなで一緒に食事をする場を通して人間的な触れ合いを深め、楽しい思い出を作ることができます。

○勤労生産・奉仕的行事として、学校園や地域の田畑を活用した米や野菜作りなどの栽培活動を実施し、収穫したものは、食材として活用するなどして勤労の喜びと自然の恵みに対する感動を体得できるようにします。



13 エ栄養教諭の関わり方

### エ 栄養教諭の関わり方

#### <特別活動の特質や目標を理解し、指導に関わる>

食に関する指導の効果をより高めるために学級担任と栄養教諭が協力して授業を行う

ときはあらかじめ指導計画に位置付けておくことはもちろんのこと、事前の打合せや連絡、事後の継続的な実践につながるような指導を工夫することが必要です。学級活動では知識の伝達が中心となる指導は好ましくありません。児童の身近な生活課題を自分の問題としてとらえ、原因や背景などをさぐり、話し合いを通して解決の方法を自分なりに意思決定していくことが大切なのです。栄養教諭は、その特質を理解し、食に関する高い専門性を生かして食に関わる様々な情報や資料の作成に努め、学校給食を通して望ましい食生活について学べるような教材開発や授業展開等について研究や開発ができるようにするなど、その専門性を十分に発揮することが求められます。

#### <食に関する指導の推進の要として全体計画等の作成や話し合いに積極的に関わる>

学級活動の活動内容(2)の「エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」に関する内容については、栄養教諭を中心としながら、6年間もしくは9年間の食に関する指導全体を見通して、意図的、計画的に指導計画を作成しなければなりません。その際、学級活動にはその他にも多くの指導内容が例示されていることから、家庭科や体育などの指導と重ならないようにしたり、日常の指導を充実させたりするなどして、学級活動で取り上げる食に関する内容については発達の段階に応じて重点化する必要があります。

### 注1

- ・中島、関谷「教員職務研修の実際：総合的な学習の時間の体制づくり」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第2号、平成29(2017)年
- ・中島、関谷「特別活動の指導にあたっての教師の役割について」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第2号、平成29(2017)年
- ・関谷「教職課程における学修理解を促す「構図」としての学習指導要領 - 「中学社会(地理的分野)平成29年度改訂版」-」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第3号、平成30(2018)年
- ・関谷「教職課程学修理解を促す「構図」としての学習指導要領--総合的な探求の時間-目標、各学校において定める目標及び内容」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第4号、令和(2019)年
- ・関谷「教職課程学修理解を促す「構図」としての学習指導要領--総合的な探求の時間-指導計画の作成と内容の取扱い」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第4号、令和(2019)年

### 注2

概念地図化は、「考えるための技法」のうち「「関連付ける」を可視化する方法として、例えば、ある事柄を中央に置き、関連のある言葉を次々に書き出し、線でつないでいくという方法(いわゆるウエビング)」であり、その機能を有したコンピュータ・ソフトウェア(“Freemind”)を使用したものである。

### 文献

- 1) 文部科学省：『学習指導要領』平成29(2017)年
- 2) 文部科学省：『学習指導要領解説 中学校社会科編』平成29(2017)年
- 3) 文部科学省：『食に関する指導の手引第二次改訂版』平成31(2019)年